



法然上人
浄土宗
開宗850年
お念佛からはじまる幸せ
令和6年

さんしゅう

教化団だより『さんしゅう』第3号

令和6年5月 佛歡喜日
発行・編集 浄土宗三州教区教化団
事務局 鹿児島組浄光寺
<https://sanshu.press>



浄土宗開宗八百五十年に想いを寄せて



沖縄 浦添市 常幸寺

副住職 島袋麗雅 れいが

浄土宗の宗祖法然上人は、一一七五年に常土宗を開かれました。今年（令和六年）は開宗八五〇年を迎えます。「南無阿弥陀仏」とお念仏を称えることによりすべての人が平等に阿弥陀さまに救われていく道（理念）を説かれました。浄土宗をたてた意趣Ⅱ考えは凡夫、仏教の道理を理解していない者が阿弥陀仏の報土、西方極楽浄土に往生できることを示すためです。その開宗の理念を広く伝えることが私の義務でもあります。

沖縄という独特な文化。檀家制度も無し。このお坊さんいやだとなれば、次の法事は別のお坊さんなんてことも。寺にかえれば両親が今日も鍛えられて来たか？と笑顔で迎えてくれます。人の心をつかむということはむずかしいことです。そんな私の弱い心、愚かな心を阿弥陀さまが救ってくださいさるのです。

歴史をたどると沖縄（琉球）は仏教の影響は大きいです。十三世紀中旬に英祖王が浦添城の西にお寺を建立しました。常幸寺も

ご縁で浦添の地に開山しました。一六〇三年、浄土宗の学僧、袋中上人五十一歳で中国（明王朝）に渡る決意をしました。が上陸を許されず沖縄（琉球）に漂着。滞在三年間でしたが、国王や民衆に至るまで身近で親しみやすく身分を超え、南無阿弥陀仏を念ずることによって救われると説き布教に努めたそうです。エイサー（念仏踊り）を広めたのも袋中上人です。浄土宗の教えは根強く浸透しております。私がそれを感じるのは門中墓に納骨をするときです。門中墓とは一族ほぼ全員共同墓の事です。必ず、南無阿弥陀仏と書いた旗を置きます。それを書くのはお坊さんです。沖縄葬祭行事書にはナムアミダとお称えます。ゆいまる（助け合う）という島言葉があります。仏教を実践しているのです。

私も僧侶になって十二年目を迎えました。

家族はもちろん。沢山の方に見守られて常幸寺は名前のとおり幸せな寺です。女性僧侶としての感性・気遣い（かなりおせっかい）して参ります。



常幸寺本堂：沖縄独特のお重のお供え

令和5年6月27日 三州教区檀信徒のつどい
併修 開宗八百五十年慶讃法灯りレレー



鹿児島 鹿屋市 浄土寺

住職 平田 顕伸 けんしん

この度は檀信徒のつどいを浄土寺本堂で開催させていただいたこと、また併せて浄土宗開宗八百五十年お待ち受け記念別時並びに法灯りレレーを併修いたしましたこと心から感謝申し上げます。

三州教区隔々の各ご寺院で開催できるようにとご尽力くださった諸大徳の皆様重ねて感謝申し上げます。

各ご寺院より参加された約九十名の檀信徒の皆様方と青龍寺報恩蔵より分灯された法然上人のお念仏のみ教え（法灯）を仰ぎいただきました。

また、佐賀教区光明寺住職の早田空善上人より、お念仏が生活の中にあると感謝の気持ちが自然と養われてくるとお話しいただきました。

檀信徒の皆様より「一層お念仏する心が深まりました」、「年を重ねましたがこんなありがたい瞬間に立ち会うことができ感謝いたします」と、手を合わせお念仏となえる姿がみえました。

今回、檀信徒のつどい法灯りレレーを開催させていただき檀信徒の仲がお



法灯りレレー

念仏によってより一層深く結ばれたように思います。

これからもお念仏の生活を檀信徒の皆様と共に豊かにしていきたいと思ひます。



満堂の本堂：皆さま真剣に話を聴かれました

令和6年1月18日 令和六年能登半島地震災害義援金 街頭托鉢募金



宮崎 日南市 正行寺

副住職 野崎亮彦

りようげん

聖號十称 宮崎県日南市の正行寺副住職、野崎亮彦と申します。平成二十二年に三州教区浄土宗青年会に入会させていただき、平成三十年から令和六年に至るまで事務局長を七年間務めさせていただいております。

三州教区浄土宗青年会では「令和六年能登半島地震災害義援金街頭托鉢募金」を令和六年一月十八日に宮崎市内にて行いました。宮崎駅前交差点・宮崎市山形屋前交差点の二ヶ所にて、被災地に思いを馳せながらお念仏をお称え致しました。

ご協力いただいた方の中には、募金箱の前を一度は通り過ぎたものの引き返して来られた方や、自転車を停めてまで歩み寄って下さる方など、本当に多くの方が温かいお気持ちを寄せて下さいました。助け合いの尊い心を間近で感じ、お念仏をお称えする声にも、より一層力が入っていきました。今回の托鉢募金54,735円は、浄土宗より日本赤十字社を通じて、被災された方々に全額お届け致しました。この度の地震により犠牲となられた方々に哀悼の意を表し、ご遺族に謹んでお悔やみ申し上げると共に、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

私たちの暮らす三州教区（宮崎・鹿児島・沖縄）は、いずれ起きるとされている南海トラフ巨大地震の被害を受ける地域にあたりま

す。正行寺は港を望む高台に位置する為、地域の皆さまに「津波がきたら正行寺さんに行けばいいね」と頼りにしていただいています。地域社会と共に生きるお寺として、これから災害に強いお寺づくりに取り組み、避難された方が数日は過ごせるように備蓄をし、地域社会に貢献して参ります。

災害をはじめ様々な不幸は、いつ誰に起こるか分かりません。幸せがずっと続けばよいのですが、人生というものは私たちの思うようにはいかないものです。今年、開宗八百五十年を迎えた浄土宗が掲げるキャッチフレーズに「お念佛からはじまる幸せ」とあります。この幸せとは、一時的な欲求が満たされる事ではありません。お念仏をお称えして、阿弥陀さまによって極楽浄土へと導かれる事こそが、決して変わる事のない真の幸せです。法然上人によってお示しいただいた尊いお念仏のみ教えを心の支えとすればこそ、日々の小さな幸せに気づき、人生を生ききる事ができるのだと思います。私自身もお念仏によつて救われていく一人として、これからも念仏弘通に努めて参ります。

合掌



皆さまの暖かいお気持ち

三州教区 寺院紹介



宮崎 延岡 専念寺

副住職 酒井真孝 しんこう



聖號十称

宮崎県延岡市専念寺の副住職をつとめております酒井真孝と申します。

専念寺の正式名称は無量山壽経院専念寺となります。当寺の寺歴は多くを消失しており、歴代の住職の言い伝え等によると、慶長三年（一五九八年）五月に建立されたようであります。その後、数回移転したのち、現在ある延岡市南町に、慶長八年（一六〇三年）延岡藩の初代藩主高橋元種が築城された際に移ってきたようです。藩主の交代が頻繁に行われる中で、第五代藩主三浦明敬より三浦氏の菩提寺となったようであります。その名残となる家紋も現在の本堂の瓦、柱に見られます。度重なる火災や昭和二十年の延岡大空襲にて多くを消失しており、その後無住の荒廃した時代を経て現在に至ります。本当に多くの方のご尽力を賜り、少しずつではございますが、境内整備も進んで参りました。

住職（父・亨司上人）と共に、法然上人が告示いただいた尊いお念仏のみ教えと、多くの方が結縁成就出来るよう行事を開催しております。お近くにお越しの際は、気兼ねなくご参詣いただければと思います。

合掌

年間行事

春季彼岸中日法要

御忌

大施餓鬼法要

盂蘭盆会

秋季彼岸中日法要

十夜法要

毎月二十五日

別時念佛会

写経会

